配布先：学長定例記者会見参加報道機関

PRESS RELEASE

令和 5年（2023年）12月 7日

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター
ウズベキスタンからの社会人研修生受け入れ
～中小企業の経営改善・事業創出を支援する人材の育成～

【本件のポイント】

- アントレプレナーシップ教育研究センターは、ウズベキスタン政府からの依頼を受け、12月20日から25日の期間で、ウズベキスタンからの社会人研修生24名を受け入れます。
- 同国の課題である雇用機会創出に必要な中小企業の経営改善および事業創出を支援する人材の育成のため、Agency for Working Mahallabay and the Development of Entrepreneurship（中小企業支援機関）所属の企業支援メンター等へのアントレプレナーシップ教育を実施します。
- 来年1月にアントレプレナーシップ教育研究センターの小野寺教授がウズベキスタンを訪問し、今後の継続的な教育機会提供および将来的なセンターの設置等に関する合意に向けて調整を行う予定です。

【概要】

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター（以下、「当センター」という）は、ウズベキスタン（以下、「同国」という）より、12 月 20 日から同 25 日の期間、同国の課題である雇用機会創出に必要な中小企業の経営改善および事業創出を支援する人材の育成に向け、Agency for Working Mahallabay and the Development of Entrepreneurship（以下、「同国中小企業支援機関」）所属の企業支援メンター 24 名を研修生として受け入れ、アントレプレナーシップ教育を実施する。

（背景・目的）

ウズベキスタンは、人口が 3,600 万人で毎年 100 万人ほど増え、80 万人の若者が労働市場へ流入している。一方で、雇用機会が労働人口増に追い付かず、高い失業率（10%程度）が国が取り組む優先課題となっている。この課題に対処するために、既存産業の収益力を高めることや起業を通じて雇用機会創出に努めており、この取り組みによる効果を高めるために、教育を通じて質の高い経営者を輩出することを目標としている。

この状況の中、同国労働省傘下の同国中小企業支援機関並びにビジネス開発銀行から、経営者並びに起業家育成について相談を受け、当センターで実績のあるアントレプレナー育成とリーンマネジメント手法が活用できることから同国からの研修生を受け入れる。

（研修の主な内容）

・アントレプレナーシップに関する講義
・リーンマネジメントの基礎に関する講義
・県内企業訪問および県内企業経営者との交流
・県内企業での経営改善指導事例の紹介

（今後の予定）

来年 1 月に当センターの小野寺センター長がウズベキスタンを訪問し、今後の継続的な教育機会提供および将来的なセンターの設置等に関する合意に向けて調整を行う。

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

お問い合わせ
山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター　菅生・齋藤
TEL　023-628-4075　　メール yu-entre@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【連携機関の概要】

〇Agency for Working Mahallabay and the Development of Entrepreneurship
代　表　者｜Norboev Bakhtiyor Turaevich, Head of the Department for International Cooperation
所　在　地｜Gulsara Street 24, Tashkent, Uzbekistan
事 業 内 容｜ウズベキスタンにおける中小企業支援

〇山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター
セ ン タ ー 長｜小野寺 忠司（教授）
設 立 年 月 日｜令和（2022）4 年 4 月　（令和 5 年 4 月から現センター名に変更）
所　在　地｜山形市小白川町一丁目 4 番 12 号（小白川キャンパス人文社会科学部 3 号館 8 階）
事 業 内 容｜アントレプレナーシップ教育（大学生、社会人、企業人、団体、中高生）
企業向けリーダーシップ教育、新事業創出教育
アントレプレナーシップに関する社会・地域との連携

令和5年(2023年)12月7日

Launch entrepreneurship journey on Uzbekistan & Yamagata University

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター
センター長・教授　小 野 寺 忠 司

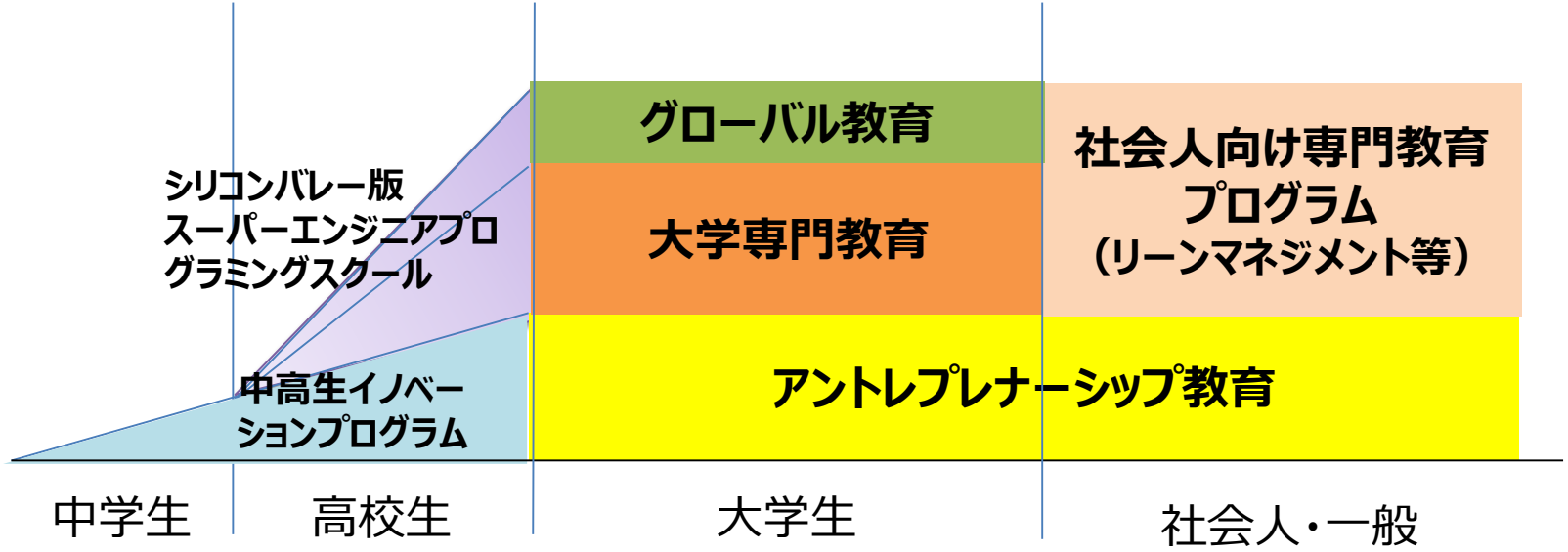
ウズベキスタンの現状と課題

- 人口約3,520万人（2023年：国連人口基金）、毎年80万人の若者が労働市場へ流入
- 雇用機会が労働人口増に追い付かず高い失業率（10%程度）が継続
- 既存産業の収益性向上と起業を通じた雇用機会創出が国の重要課題
- 課題解決に向け、教育を通じた質の高い経営者、企業支援者の輩出を目指す

アントレプレナーシップ教育研究センター 取り組みの特徴

山形大学 Yamagata University

- 実践的な教育の3要素：アントレプレナーシップ、専門知識、グローバル力
- 大学教育をコアに、中高生、社会人・一般へと、一気通貫の教育プログラム



ウズベキスタンにおける起業家育成
並びにアントレプレナーシップ教育研究センターの設立構想

山形大学アントレプレナーシップ教育研究センター（以降、当センター）による起業家及び小規模事業経営者の育成により事業創出と成長、そして雇用機会増大に貢献することから始める。そのためにウズベキスタンの既存ビジネススクールや既に教育機会を提供しているウズベキスタンジャパンセンターと連携しながら、より適切な教育機会の提供を考えている。

当センターの事業家育成は「実践力」が身に付くことに特徴がある。実践力はメンタリングを含めた伴走型の指導で育まれる。伴走するには当センターがウズベキスタンに活動の拠点を置くことが必要であり、当センターのウズベキスタン事務所設立を目指している。

また当センターがウズベキスタンへ進出することにより、日本-ウズベキスタン両国の大学生と社会人が、人的交流を含めた学びの拠点とする構想も描いている。

2024年からの取組み

2025年（見込）

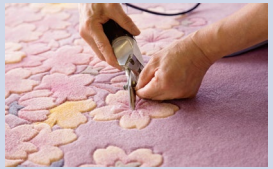
ウズベキスタン社会人研修生受け入れ概要

山形大学 Yamagata University

日程	2023年12月20日～25日
対象者	The Agency of（中小企業支援機関）所属の 企業支援メンター等　24名
目的	雇用機会創出に必要な 中小企業の経営改善および事業創出を支援する人材の育成
主な研修内容	・アントレプレナーシップに関する講義 ・リーンマネジメントの基礎に関する講義 ・県内企業訪問および県内県内企業経営者との交流 ・県内企業での経営改善指導事例の紹介

以降、参考資料

ウズベキスタン研修生訪問企業

企業名	所在地	事業概要
オリエンタルカーペット㈱	山辺町	素足の生活様式に合わせた日本のじゅうたんを 独自につくり続け、日本で唯一、糸づくりから、 染め、織り、アフターケアまで一貫生産。 
山形朝日㈱	南陽市	大型精密板金加工メーカーとして、現在は 主に通信インフラ関連のラック製品を中心に生産。 ウズベキスタン向けにも出荷実績あり。
出羽桜酒造㈱	天童市	明治25年（1892年）の創業以来、地元の蔵人による 完全手造りの酒造りに徹し、特に吟醸酒の普及に貢献。 現在では、世界25か国以上に販路を拡大。
㈱菊地保寿堂	山形市	現在、日本で一番古い鉄瓶屋で、創業1604年。 日本伝統の鋳物技術を今に伝え、日本で唯一 和銑(日本刀の元材料と同じ)鉄瓶を製作。

- 主に地域の素材に付加価値を加えて事業を成長させてきた企業を訪問